

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0170502496, 有限会社 時館, グループホームあいある石山, 札幌市南区石山2条4丁目1-50.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0170502496-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和4年1月14日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「私たちは利用者様の個々の生活を尊重し、自分らしく笑顔で安心して暮らせる環境を作り地域に根差し温かい福祉社会の実現を目指します」を基に、各利用者様のご意思を尊重しながらご自身で出来ることは行って頂き、ADLが維持できるよう支援いたします。各ユニット・各職員の個性、特性を生かしたより良い介護支援が出来るような環境作りを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は南区の落ち着いた住宅地にあり、幹線道路に面しバス停にも近く、コンビニやスーパーも至近距離であり、小学校や消防といった行政も徒歩圏内で、静かな生活に恵まれた環境下に立地している。また事業所と隣接する寺院とは、災害時の一時避難所として、境内等を散策路として、イベント時の臨時駐車場として使用許可を得たり等々、友好的な関係が維持されている。設立は2004年で、GHや小規模多機能事業所を数多く運営している当法人の最初の事業所であり、法人の原点的な事業所となっている。当事業所の優秀な点は、利用者に対する意識の徹底を挙げたい。事業所職員は利用者をお客様として位置づけ、お客様への対応、お客様の目線等々を大切にしている。また、その生活の様子をくまなく家族にお知らせする開かれた介護を目指しており、法人としても最優先の課題として取り組んでいる。具体的には利用者の生活の様子について、お便りのほかに個人別メッセージも毎月送り、積極的に電話での会話や対応を続けており、利用者家族から信頼と好評を得ている。長年の活動で地域交流も良好で、また家族の信頼も厚い事業所「グループホームあいある石山」に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は談話室、居間に掲示されている。職員は利用者様と信頼関係を築くよう、理念の実現に向かって取り組んでいる。	法人理念と4項目の介護指針を策定し、事務室等に提示し、日々喚起を促している。また新人研修では理念の重要性を説明し、会議や申し送り等で理念がケアに反映されているかを検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナにより数多くの参加していた行事が中止となり地域交流が無くなってしまった。来年は新年会が開催される等少しずつ参加の機会が増えるので、積極的に参加したい。	設立後17年が経過し、コロナ禍で中断状態であるが地域との交流も意欲的に継承されている。隣接の寺院からは、避難場所や行事には駐車場を借り受け、また散策の場としても利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においても書面会議となり、町内会長さんや包括支援センターへ意見を求めているが、特に現意見はなくこちらからの報告で終わっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況や行事、事故報告、研修等によるサービス改善について報告を行っている。	現状は紙面による開催となっているが、事故・ヒヤリハットやサービス内容も議題や報告として提出し、意義のある運営推進会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナにより数多くの研修が無くなったが、今後はZOOM等幅広く参加の可能性が広がったので参加したい。相談があれば札幌市の事業指導担当者の方へ連絡し、都度指示を受けている。	市の担当者とは、介護保険の更新や申請で顔見知りとなっており、気軽に相談できる信頼できる関係にある。情報交換も管理者会議やケアマネ連絡会を通じて行われ、協力関係維持強化に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去に離設が相次いだことにより施錠はしているが、簡単に開けることができる仕様となっている。身体拘束は行っておらず、廊下や玄関等見守りにて自由に歩いて頂いている。	拘束廃止に向け委員会を設置、指針を定め2ヶ月に一度の頻度で開催している。議事内容は日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で職員にも周知徹底しており、日頃の実践を振り返りながら拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状身体への虐待はないが、スピーチロック等言葉による虐待が起きないように研修を通じて、職員間で注意し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用者様で成年後見制度を利用されている方がいるので、実際の利用者様を例に理解出来るよう話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に書類を用いて説明を行い、理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにてご家族と面談する機会は減っているが、電話やメールを使用し連絡を取っており、ご意見や提案を頂いている。それらの意見を職員間で共有し反映させている。	家族には、日々の利用者の様子を写真に納めた「あいある石山通信」と、担当職員による手書きのメッセージを毎月郵送している。年1回、家族の意見を運営に反映できるようにアンケートを実施し、業務改善に生かしている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	6か月に1回自己評価をし、それを踏まえて個別に面談を行っている。事業所に対してや会社に対して意見がある際は目安箱もあり運営に反映させている。	職員とは日ごろからなんでも話し合えるよう努め、また年2回の個別面談で自己目標の進捗度を確認したり、意見や要望を聞き取り、職場の環境や介護現場に生かせるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談の機会を設けており、悩みや改善できる提案等話し合い把握し、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修や高齢者虐待身体拘束廃止等研修を行い学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで直接集まり交流はないが、ZOOMにて一般職員交流会・リーダー交流会等実施し話し合いサービス改善・向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や以前暮らされていた施設や住宅での暮らしの情報を取り入れながら(職員間で共有し)、新しい環境になじめ安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なこと要望等を聞き取りし、希望があるご家族には密に連絡行っている。あまり連絡してほしくないご家族もいらっしゃるので、その場合は日ごろの様子を文章にしお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様ご家族様の意向や要望をお聞きしこたえられるよう努めている。以前のケアマネさんやSWさんからも情報を頂きそれも踏まえて提案し了承を得てサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様1人1人出来ることには差はあるが、利用者様の「出来ること」に着眼しお手伝いや運動・レクに参加して頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に連絡やホームでのご様子のお手紙等で現状の様子をお伝えし、コロナでご家族に来ていただく機会は減っているが、ご家族様の協力を得ながら支援行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにて面会が出来ない中ではあるが、電話連絡等で関係継続できるよう努めている。	コロナ禍での現状で、外出や面会が不可能なため、思うようには実行できないが、家族との連絡を密に行い、電話での対話や、また介護員は利用者との話し合いの場を積極的に作るなど、工夫をもって取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人の性格を踏まえて座席を決めたり、レクや運動等参加の場面でも皆様で取り組めるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を受けることが多く、必要な助言・情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネによるケアプランへの落とし込みや、日々のご利用者様からの意向を申し送りやミーティング等で情報共有し把握に努めている。	生活を支える中で、希望や思いを把握共有して本人の意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように取り組んでいる。	本人が最後の時間をどこでどの様に過ごしたいのか等の最終段階での本人の希望・意向に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、より本人本位の生活となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のケアマネや施設関係者、SW等から生活歴等情報を頂き、センター方式で落とし込み反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は日々のバイタルチェックや生活状況の把握を職員間で共有し、特変あればケアマネや管理者へ報告受けている。記録にも落としご家族様にも報告している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員1人1人に利用者様の担当を持ち、モニタリング等行っている。情報は日々ケアマネ・職員で共有し家族にも報告し、ケアプランに反映させている。	担当者とスタッフで検討し、その人にあったプランを作成し日々実践している。また病変等には早急に対応し、現状に即したプランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した記録の書き方を取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本はご家族で受診対応して頂いているが、本人のADL低下により対応難しくなった際は施設で対応している。買物や役所の申請等多岐に支援行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会による花植えやゴミ拾いには、コロナで中止になってしまい参加出来ず。庭の畑の収穫等、施設敷地内で安全に行えることに参加出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は往診が多いが家族や本人の希望により、今までのかかりつけ医と連携しながら支援している。往診医・薬局とも協力関係にあるので特変時にも早急に対応出来ている。	医療は24時間オンコールの協力医による月2回の往診や、週4回の看護職員の健康チェックで安心できる体制となっている。かかりつけ医の受診は、基本的に家族支援としているが、職員同行が日常的となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で訪問看護に情報提供・相談し適切な看護を受け、往診医とも連携が取れている。必要時には受診し結果等報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のSW・看護師さんに病歴や薬情、基本情報を伝えている。入院後も連携を取り早期の退院に努めている。入院先となる病院とも関係づくりは行っており、利用者様の紹介も受けて入居に繋がっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明行っており、その段階でご家族様から利用者様が終末期になった際の意向について話し合い書面に残している。	重度化や看取りについての指針を説明し、利用者や家族の意向を確認しているが、現実的には看取り介護の実施には至っていない。家族と医師、事業所との話し合いにより、最適な方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化に対して往診医等から指導を受けている。急変時はマニュアルを用い、急変時はまずは救急車に連絡し管理者に報告。管理者から看護師へ報告。管理者にて救急車同行している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナにて地域との協力して訓練は行っていないが、町内会長さんからはなにかあったら連絡ほしいとお話して頂いている。年に2回避難訓練実施している。	年2回の夜間想定火災避難訓練と、水害想定避難訓練を実施している。隣接の寺院を一時避難場所とし、また母体法人の他の事業所からの相互協力も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として敬う気持ちを持って頂き、ケアして頂けるよう指導している。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望が引き出せるような環境作りは出来ている。ご本人が表せない場合は聞き取り思いに沿った支援が出来るよう支援行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレク等行事は行っているが強制はせず、利用者様本位でペースを乱さず支援は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝たきりの方でも起床の際髪をとかす等身だしなみには気を使っている。着替えの際は複数の服から選んで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託している。行事食の際は利用者様の意見を取り入れて提供している。おやつ作りは利用者様と一緒にやっている。片付け・食器拭きのお手伝いをしている。	食事は配食サービスを実施し、栄養や量、飽きの来ないメニューをお願いし、見た目も楽しめるよう工夫している。行事食やおやつは職員で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残しており、看護師や住診医とも共有している。量が摂れない利用者様もいるので職員間で共有し無理せず、栄養補助食品を用いながら栄養摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後声掛け誘導、介助にて口腔ケアを行っている。声掛けのタイミングが難しい方がいるので、成功例を共有し実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導しベッド上での介助にならないよう工夫している。1人1人に合った時間を見つけ出し、トイレ誘導し失敗が減っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、排泄の誘導も時間と仕草やサインを読み取って行っている。食べ物や軽い運動も取り入れて、自然な排泄になるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを使い管理している。便秘傾向が強い場合、看護師・医師と相談し排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、入りたくない場合は無理せず曜日や時間をずらして入浴できている。	入浴は週に2回としているが、ほぼ毎日お風呂は用意されており、実質的にはいつでもだれでも入浴可能な体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活歴があるので、希望の時間で入眠されている。17時に眠る方から23時30分に眠る方まで幅広い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の説明やお薬情報を職員に理解できるように説明している。精神薬は特に副作用が出やすいので変化はすぐに報告をもらい、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様や以前のケアマネ・施設等から生活歴や趣味、特技をお聞きしお手伝いして頂いたり個別活動に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナになり外出の機会は激減した。最近少しづつ本人の希望で買物等に行っているが積極的には行えていない。外出行事は紅葉を見に行ったり、ソフトクリームを食べに行ったりと回数は少なかったが感染対策し行った。	計画的に外出を企画し、また天候によって周辺を散歩したり、札幌市内をドライブを兼ねて買い物や外食、花見や紅葉観賞、車窓からの雪祭り見物を実施してきたが、コロナ禍により自粛となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお小遣いを事務所で管理している。しかし、利用者様の中にはお金を持っていたいと希望がある方もいるので、ご家族の了承を得て利用者様にお金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは本人の希望により行っている。はがきを出したいと希望もあり、文章を書く支援等行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中は適度な明るさを保っている。庭から木々や花、リス等小動物もおり季節は感じやすい。利用者様と一緒に作る工作物は季節感を感じさせる(紅葉やクリスマスツリー等)ものとし、掲示している。	ユニットそれぞれに設えの違いはあるが、居間にはエアコンが完備しており、過ごしやすい環境にある。行事写真や観葉植物、利用者と一緒に作った折り紙や、職員手作りの紙粘土の作品を飾っている。季節毎の装飾にも工夫を凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は工夫しており、1人1人自由度は高く過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に生活されていた環境を出来れば見に行き(または聞き取り)、出来る限り再現しご家族や本人を交えて話しながら入居を行っている。入居後も馴染みのものが長く使えるよう支援している。	居室には、ベッドやクローゼット、カーテンを設置している。入居時に、慣れ親しんだ物品の持ち込みを勧めている。タンスやテーブル、写真、飾り物などが動線に配慮して置かれており、安心安全な居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることに視点を置いて支援行っている。廊下を頻回に歩かれる方でも無理に制止せず、転倒なく歩けるよう見守りし階段は転落予防の仕切りをつけている。		